

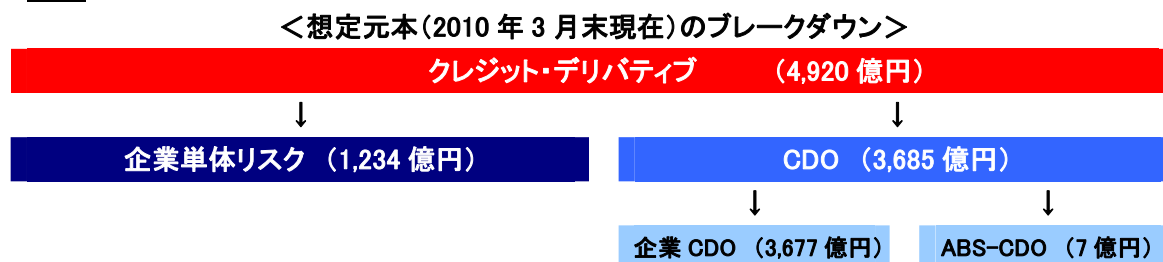
クレジット・デリバティブ等の状況アップデート(2010年3月末現在)

前四半期末同様、「クレジット・デリバティブ」ならびに「米国モノラインからの受再」につき、当四半期末の状況をQ&A形式でご報告します。2010年3月末現在の状況は以下のとおりです。

◆「クレジット・デリバティブ」について

Q1：想定元本（2010年3月末現在）の内訳を教えてください。

A1



- ・ 想定元本の総額は 4,920 億円（前四半期末比▲63 億円）。うち企業単体リスクの引受が 1,234 億円（同▲19 億円）、CDOの引受が 3,685 億円（同▲44 億円）です。
- ・ CDOの想定元本 3,685 億円のうち、企業CDOに係るものが 3,677 億円、ABS-CDOに係るものが 7 億円です。
- ・ 「クレジット・デリバティブ」における引受リスクは、想定元本の 99.8%が企業の信用リスクです。引受けているリスクの中に米国サブプライムは含まれておりません。

Q2：格付け別の残高構成を教えてください。

A2

企業単体リスクの引受

(億円)

CDO トランシェの引受

(億円)

格付け	引受残高(構成比)				
	国内企業		海外企業		うち 金融 機関
AAA格	37 (3.0%)	37 (3.3%)	- (-)	-	
AA格	649 (52.6%)	599 (53.4%)	49 (44.4%)	-	-
A格	519 (42.1%)	476 (42.4%)	43 (39.0%)	-	-
BBB格	28 (2.3%)	10 (0.9%)	18 (16.6%)	-	-
BB格以下	- (-)	- (-)	- (-)	-	-
合計	1,234 (100%)	1,122 (100%)	111 (100%)	-	-

格付け	引受残高(構成比)	
AAA格	3,363	(91.3%)
AA格	50	(1.4%)
A格	132	(3.6%)
BBB格	46	(1.3%)
BB格以下	93	(2.5%)
合計	3,685	(100%)

- ・ 上表のとおりです。
- ・ 企業単体リスクの引受に関しては、A格以上の企業がポートフォリオの 98%を占めております。
- ・ また、CDOに関しては、AAA格以上が 91%、A格以上が 96%を占めております。

Q3：「企業単体リスク」ポートフォリオの分散状況につき教えてほしい。

A3

- ・ 国内 62 社、海外 8 社の信用リスクを個別に引き受けており、1 与信先あたりの平均引受額は 17 億円です。

Q4：「CDO トランシェの引受」の平均的な劣後割合は何%か？

A4

- ・ 平均劣後割合（トランシェの引受額による加重平均）は 17%です。

Q5：クレジット・デリバティブの評価損益（2010 年 3 月末時点）は？

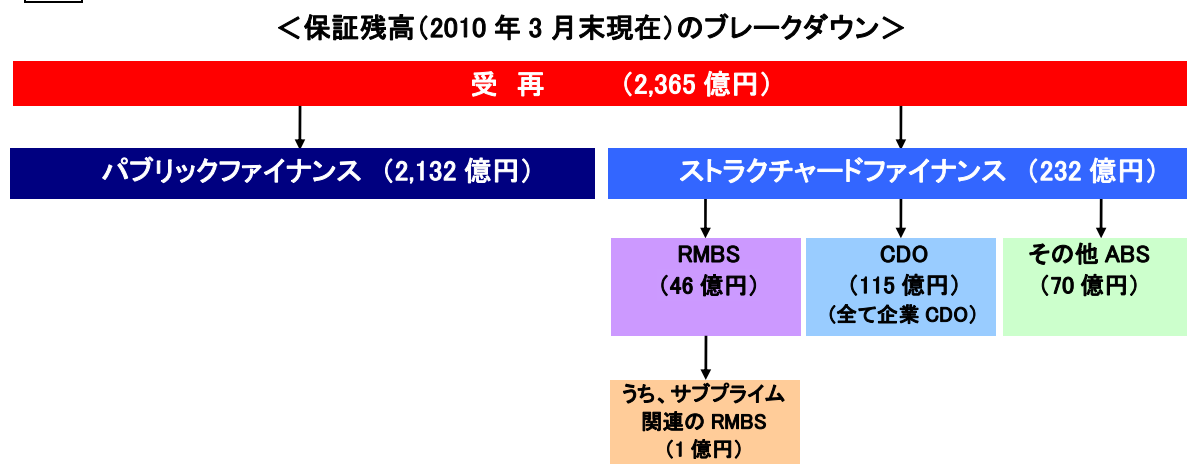
A5

- ・ 評価益 +246 億円（企業単体リスク +74 億円、企業 CDO +171 億円）を計上しました。

◆ 「米国モノラインからの受再」について

Q1：保証残高（2010 年 3 月末現在）の内訳を教えてください。

A1



- ・ 保証残高の総額は 2,365 億円（前四半期末比▲3,222 億円）。うちパブリックファイナンスに係る残高が 2,132 億円（同 ▲1,661 億円）、ストラクチャードファイナンスに係る残高が 232 億円（同 ▲1,561 億円）です。
- ・ ストラクチャードファイナンスに係る残高 232 億円のうち、RMBS に係るものが 46 億円、CDO に係るものが 115 億円、その他 ABS に係るものが 70 億円です。
- ・ なお、RMBS のうち米国サブプライム関連の RMBS は 1 億円です（決算短信 57 ページご参照）。

Q 2 : 保証残高が 2009 年 12 月末と比べて 3,222 億円減少した理由は何か？

A 2

- ・ 既存受再契約の一部を第 4 四半期に解約したことによるものです。
- ・ 金融サービス事業に係る受再は、再保険特約等を通じ米国モノラインから原債権の信用リスクの一部を引き受けるものです。これまでインカードロスは以下のような水準で推移してきましたが*、米国経済が低迷を続けるリスクが払拭し切れないことなどを勘案し、既存受再契約の一部を解約することとしたものです。

* インカードロスの発生状況： 2007 年度： 5 億円
2008 年度： 39 億円
2009 年度（第 3 四半期まで）： 15 億円

- ・ これにより、ストラクチャードファイナンスに係る保証残高は、2009 年 12 月末時点の 1,794 億円から 232 億円へと大幅に減少しました。

Q 3 : 格付け別の残高構成を教えてください。

A 3

(億円)

格付け	引受残高(構成比)	
AAA格	160	(6.8%)
AA格	801	(33.9%)
A格	943	(39.9%)
BBB格	410	(17.3%)
BB格以下	50	(2.1%)
合計	2,365	(100%)

- ・ 上表のとおり、A格以上が 81%、B B B格以上が 98%と、総体として良好なレベルを維持しております。

Q 4 : 元受モノラインの格下げが、貴社の受再ポートフォリオに影響を及ぼすことはないのか？

A 4

- ・ 当社が受再で引き受けているリスクは元受モノライン自体の信用リスクではなく、元受モノラインが引き受けた地方債や ABS など（原債権）の信用リスクです。
- ・ したがって、元受モノラインの格付低下により、当社が受再を通じて引き受けているリスクの内容やクオリティに影響を受けることはありません。

- <ご参考> なお、米国モノラインに対する与信（2010年3月末現在）としては、以下のものがあります。
- モノライン保証債に関する保証・引受等が71億円、モノライン保証債への投資が9億円。
（これらについて当社側に支払責任（または実現損）が発生するのは、「原債券」と「当該債券を保証しているモノライン」の両方がデフォルトした場合に限られます。）

Q 5 : 「米国モノラインからの受再」に関して 2009 年度に発生したロス金額は？

A 5

- 支払保険金と支払備金の合計で 106 億円です。（受再契約の一部解約に伴う支払保険金を含めた数値です。）

以上